

ひなたぼっ通信

2020年
9月号

宅幼老所から

「お好きな服は？」

立秋が過ぎてても猛暑の日々です。でもそこかしこに秋の気配はしてきました。

我が家の周りではクズの花が香りを放っています。

この香りがしてくると思いだす言葉があります。それは、子供の頃に母から教わった秋の七草の七種の花の名前の覚え方です。「オ・ス・キ・ナ・フ・ク・ハ」七種の花の頭文字を繋げると出る言葉です。

オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギ。

この中でも私はフジバカマが好きです。蝶々を呼びたくて無農薬で育成している庭の草花には沢山の蝶がやってきます。その中でもフジバカマは一番多くの蝶たちの食卓となります。このフジバカマが間もなく開花します。フジバカマが開花したら庭と野山で摘んだ花とで秋の七草は全てそろいます。

全て揃ったら宅幼老所に飾りたいと思っています。その頃には本格的に秋の到来です。



今しばらくの暑さを乗りきって心地よく美味しい秋を楽しみましょう。(一)

ケアハウスから

「今年の夏」2階

長い梅雨が明け、これから夏休みだ！お盆だ！とウキウキしているところコロナウイルスがまたまた流行り出してしまいました。やっと面会も一部解除されて、外でご家族とお茶を飲んだり、少しの時間なら直接面会が出来たりとコロナウイルスから解放されつつあったのにとても残念です。

また、毎年お盆休暇を利用してお孫さんなどを連れて大人数で面会に来られるご家族の方も見られ賑やかなお盆を過ごしていたので今年はその見られないと思うと寂しい気持ちになります。

面会は利用者さんとご家族との絆をつなぐ時間だと思っています。自宅を離れ、施設で生活する利用者さんは大きな不安と寂しさを持っており、時には「家に帰りたいな」「うちの周りどうなっているのかなあ」などの声も聞こえてくることもあります。

そういった利用者様の不安をどう緩和することが出来るか、私たちは日々模索しています。

その中で、五月から開始していた



ミニトマト作りに変化がありました。実がなり、色がつき、食へられるようになってきました。今年は、梅雨が長く雨もたくさん降ったのでちゃんとできるのか不安でしたが、日に日に成長していくトマトを見てじめっとした空気もさっぱり爽やかに感じました。食べてみた所、皮が少し硬い気がしましたが、味はしっかりとっていて美味しかったです。まだまだたくさん実がなりそうなので、たくさん利用者さんに食べて頂けたらと思います。それと同時に、陽が当たらなくて心配だった朝顔も元気に花を咲かせてくれています。

コロナ禍と言われている世の中ですが、私たちも健康に充分気を付けて利用者さんと明るく過ごしていきたいと思っています。

まだまだ暑い日が続き、心身ともにバテてしまいがちですが、夏の暑さにも負けず、コロナウイルスにも負けず、また直接面会できる日を楽しみにお待ちしております。

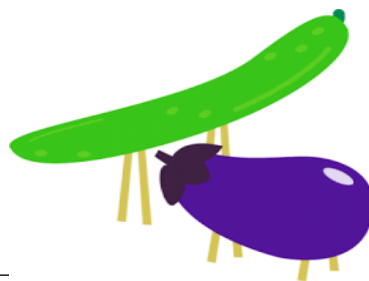
「はじめまして」1階

こんにちは。9月よりひなたぼっこでお世話になっていきます。

祖母の介護を経験したことが、介護職に興味をもったきっかけです。また、介護をサポートしてくださったヘルパーの方が笑顔でやさしく接してくださったこと、その方がイキイキと働く姿を見たことで、私も介護の仕事がしたいと強く思うようになりました。人と接することが好きなので、入居者様との触れ合いに、やりがいと喜びを感じま

すし、今までの経験を通して誠心誠意対応することの大切さを実感しております。

未熟者ではありますが宜しくお願い申し上げます。(S)



フードバンク・無料塾

- ・8月23日は17人が参加してくれました。
- ・9月13日(日)は、フードバンクのみ実施とします。連絡をすれば物資をお届けます。今後のことはコロナの状況を見て検討します。

グループホームから

「お盆」2階

お盆の数日前、テレビを見ながら、ある利用者様が「今年は嫌な病気が流行って、お盆でも孫たちと会うこともできないんだね。」と少し寂しそうに話しておられました。「私も今年は帰らないです。」とお答えすると「仕方ないね、みんな一緒だね。」と納得されていました。

次の日、ご家族の方からその方に面会依頼の電話がありました。そして、玄関でパーティーション越しに10分程度お話し「短い時間でも楽しかったよ。」と笑顔で戻ってこられました。

少しでも早く今の状況が落ち着き、あたりまえの日常が戻ってくることを願っています。

放課後等デイサービスから

「ヤマメはどこだ!」

短い夏休みが終わりました。子ども、特に男の子は、虫取りや魚取りが大好きなものです。カブトムシやクワガタを捕まえに、早朝裏山に行ったことを覚えている人も多いのではないのでしょうか。

この夏に、子ども達と川に出かけました。「魚を捕まえるぞ!」と出かけましたが、まさか本当に捕まえられるとは思わなくて。でも、ビギナーズラックであるですね。エイヤ!と入れた網にピチピチと跳ねる魚がいるではありませんか。見ると、ヤマメの幼魚です。子ども達のテンションはいやがうえにも上がります。「もう一匹!」と、はやる気持ちで網を入れますが、その後は全く網に入ってくれません。その日は、時間まで粘って結局は最初の1尾だけ。

「夢ももう一度!」と、翌日もその翌日も川に行きましたが、やはり結果は同じです。近くに、子どもが安全に捕まえられる魚が住んでいるところを、どうか教えてください。

ヤマメは、ある子が持ち帰り、唐揚げにして美味しく食べたということでした。



魚を追って川をめぐる子ども達。正しい夏の子どもの姿がここにあります。

編集後記

長雨から一転、猛暑の8月でした。コロナ禍での猛暑は、だれにとっても経験したことのないことでした。通常の夏であれば、暑い中にも「お盆だ」「夏休みだ」と家族が再会したり、普段できないことを経験出来たりという、楽しいこともありました。しかし、この夏はそれにも大きな制約がありました。ケアハウスやグループホームの記事にもあるように、ひなたぼっこの利用者の皆様にとっても、そしてご家族の皆さまにとっても「我慢の夏」だったのではないのでしょうか。

この夏、多くの夏祭りや花火大会が中止になりました。調べると、京都の祇園祭や隅田川の花火大会などの起源は、そのころ流行したコレラなどの「疫病退散」を願ってのことのようです。疫病退散を願った取り組みが、疫病のために中止に追い込まれたのは、歴史の皮肉と言えます。

ただ、その後の歴史を見ると人類は天然痘を根絶し、小児麻痺も現在の日本では死語となりました。人類の叡智は今度も、コロナウイルスを乗り越えたと信じています。来年の夏は、どの利用者様も、笑ってご家族と手を取り合って、会うことができますように。

理事長 森 正明

〒3399-0211

富士見町富士見11650-1

TEL 02666-61-2335

FAX 02666-61-2336

